

朝

夏の雲には遠い地への憧れがあり
私は波音を
味気ないことに
小さなカセットテープから聴いている

涼しい大気は心を澄ませ
薄い藍色の空を
まるで数十年ぶりに見るような
錯覚に陥らせる

ああ、私は黙すことが感じることだった
しかしそれも今は許されず
理解されず
私に残された道といえは
あの、もうひとりの私を
心ならずも呼び寄せることのみであった

(1988.8.8)